



Letter for Members

日本補綴歯科学会 Japan Prosthodontic Society
ほてつ

<http://www.soc.nii.ac.jp/jpds/>

発行人 川添堯彬

編集 広報委員会

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込 1-43-9 (財)口腔保健協会

TEL 03-3947-8891 FAX 03-3947-8341

平成 13 年 10 月 10 日発行

コンテンツ

新執行部着々と成果あがる	1	名誉会員紹介	7, 8
副会長挨拶	1	第 107 回学術大会案内	8, 9
第 1 回国際フォーラム開催される	2	課題口演優秀賞受賞演題	9
英文誌発行準備委員会動き出す	2	今後の学術大会	9
金銀パラジウム問題	2	支部学術大会のお知らせ	9
役員選出に関する内規の変更	2	支部学術大会抄録集の表紙変更される	9
役員変更のお知らせ	2	関連学会案内	9, 10
新評議員紹介	3	関連国際学会案内	10
「特定推進研究」領域の設定について	4	関連学会報告	10-12
「特定推進研究」の 10 領域の紹介	4, 5	解説 関連学会参加時の単位について	12
学会の健全運営化進む	6	Dentistry in Japan 掲載論文紹介	12
ホームページが変わりました	6	新規認定研修機関 (乙) の紹介	12
電子ジャーナルとは	6, 7	新指導医・認定医紹介	12
中堅層に対する表彰制度の骨子固まる	7	新入会会員紹介	12
日本学術会議との連携強化	7	広報委員会からのお願い	12
日本歯科医学会報告	7	ニュース	9
特別功労賞受賞者決まる	7		

新執行部着々と成果あがる

新執行部がスタートして半年が経過しました。新執行部で取り上げた重点目標・活動方針である、1) 特定推進研究の設定・奨励・顕彰, 2) 英文誌発行, 3) 会員増強, 4) 補綴領域への疾患・障害・異常・病名等の項目導入再編・体系化, 5) 法人化の検討, 6) 認定医の増強, に沿って新執行部は活動してきました。

今回のニュースレターでは、まず大山副会長にご挨拶を頂きました。また、今期執行部の成果の一端である、国際フォーラムの開催、英文誌発行準備委員会活動、特定推進研究、ホームページなどについての記事を掲載しました。特に「特定推進研究」の領域については、本学会誌 45 巻 4 号にも掲載してありますが、資料として再度掲載しました。

副会長挨拶



副会長 大山 喬史

私は、しばらく日本補綴歯科学会の活動を外から見てまいりましたが、前会長田中久敏先生のもとで副会長として 2 年間本学会の運営、置かれている状況についていろいろ教えて頂きました。

昨年の会長選では図らずも次期会長としてご推挙頂き厚く御礼申し上げるべきところではありますが、少々荷が重すぎると実感しているのが本心であります。

今期の執行部においても川添堯彬会長のもとで次期会長候補副会長として、将来の学会活動につながる相当な努力が必要かと認識しております。

現会長が掲げたプロジェクト「プロソ日本 2001 計画」(補綴治療の EBM の確立)、誠に時宜を得た、魅力ある標語と感服しております。

私に残されている僅かな年月、この目標達成に少しでもお役に立てれば幸いです。

第1回国際フォーラム開催される

IADR に来日された Carlsson, G.E. 教授 (前 ICP President), Campbell, S.D. 教授 (IADR Prosthodontic Group President, University of Illinois), Knoernschild, K. 教授 (IADR Prosthodontic Group, Incoming President-elect, University of Illinois), Carr, A.B. 教授 (Mayo Graduate School of Medicine, Rochester), Eckert, S.E. 先生 (Mayo Graduate School of Medicine, Rochester) をお迎えして、本学会員との補綴の教育, 研究, 臨床に関する意見交換会として平成 13 年 6 月 29 日(金)午後 7 時からホテルニューオオタニ幕張大観苑において開催されました。今回は、最初の国際フォーラムのため、クローズドな形で理事あるいは関連委員会委員の希望者を対象として行われました。

古谷野 潔国際渉外委員長の司会で始まり、最初に川添堯彬会長から本フォーラムの趣旨と歓迎のご挨拶があり、続いて Carlsson 教授からは「Future of Prosthodontics」について、Campbell 教授からは「The Current Status and Future of Prosthodontics in the United States」についてご講演を頂きました。次いで、赤川安正学術委員長より日本における補綴教育, 研究, 臨床に関する報告がありました。その後、田中久敏前会長による乾杯の音頭により中華料理を楽しみながら、和気藹々のうちにも熱心な話し合いが持たれました。

出席は、川添堯彬会長、田中久敏前会長、平井敏博庶務担当理事、古谷野 潔国際渉外委員長、赤川安正学術委員長、細井紀雄編集委員長、川崎貴生教育問題検討委員長、山内六男広報委員長、矢谷博文委員、佐藤博信委員、渡辺文彦委員、石上友彦委員、萩原芳幸委員の 13 名の先生方でした。

今回は、世界の補綴学界のリーダー達からのグローバルな補綴将来動向の観察や相互の friendship の獲得ができ、大変有意義な機会となりました。この第1回国際フォーラムの具体的内容は、別の機会に会員へ紹介される予定となっています。

第2回目の国際フォーラムは第31回日本口腔インプラント学会終了日の翌日の本年9月24日(月、振替え休日)に九州大学において開催されました。その詳細につきましては次号にて詳しく報告いたします。

英文誌発行準備委員会動き出す

今期執行部の重点計画の最も大きな目玉である英文誌発行に向けて準備委員会(委員長:川和忠治教授)が動き出しました。すなわち、5月21日、7月9日の2回委員会が開催され、種々討議されました。その結果、英文誌発行の目的が日本の補綴学術情報の世界への発信、学会の国際化であるこ

とが再確認されました。当面は学会員を対象とした雑誌とすること、発行は年1回で、平成14年10月発行を目標とすることが決まりました。また、これを創刊号第1巻第1号とすることなども決まりました。そのため、和文誌の発行回数は年5回となります。これらに関しては会則30条、31条の変更も必要ですので第106回学術大会時の臨時総会で議決事項として審議される予定です。雑誌名は「**Prosthodontic Research & Practice**」(略称 **Prosthodont Res & Pract**) に委員長会で決定しましたので、次回の理事会で議決される予定です。また、英文の投稿規定もほぼできあがっていますので、次回の理事会で協議される予定です。

投稿締め切り日は平成14年3月31日を予定していますが、投稿募集、投稿規定等に関しては45巻6号に掲載される予定です。いまから、投稿のご準備の程お願いいたします。

金銀パラジウム問題

昨年来パラジウムの高騰に伴い金銀パラジウムの市場価格も高騰しており、数回にわたって鑄造修復物の保険点数が改訂されています。もともと金銀パラジウム合金そのものが金合金の代替材料であるわけですが、このような高価な合金では代替材料としては不向きといえます。

そこで医療問題検討委員会では、現在金銀パラジウムにかわる代替材料に関するデータを蓄積しています。第106回学術大会でもこれについて緊急シンポジウムが開催されます。

会員の先生方で文献や実験データをお持ちの方がおられましたら、伊藤 裕委員長までご一報下さい。

役員選出に関する内規の変更

昨年度の総会において、細則変更が議決されましたが、大きな改正点は会長の選出方法です。すなわち、今回の改正では評議員による投票によって選出された者を次次期会長適任者として選挙管理委員会が総会に推薦し、次次期会長候補者となることです。また、第1回目の投票で上位3名でかつ被推薦者となることを受諾した者を第2回目の被推薦者とし、「所信表明」を行って頂くことになりました。

役員変更のお知らせ

監事の保母須弥也先生(東京支部)が奥羽大学学長になられ、監事を辞退されました。代わりまして藤井輝久先生(朝日大学)が監事に就任されました。なお、保母先生は会長推薦の評議員として東京支部に所属されることになりました。

新評議員紹介

(2001年4月1日～2003年3月31日)

東北・北海道支部
 石島 勉 石橋寛二 稲井哲司 近江谷尚紀 大畑 昇 金森敏和 鎌田政善
 川崎貴生 菊池雅彦 木村幸平 木村英敏 坂口邦彦 佐々木金也 佐々木啓一
 塩山 司 嶋倉道郎 清水隆夫 清野和夫 高藤道夫 田中 收 田中久敏
 玉澤佳純 野谷健治 日景 盛 平井敏博 二俣隆夫 三嶋 顕 虫本栄子
 山田芳夫 山本 秀 山森徹雄 依田正信 渡辺 誠 (33名)

関東支部
 宇野清博 塩屋雅晴 加藤一誠 北村 伸 小出 馨 河野正司 小司利昭
 小林 博 田口直幸 西野和之 野村修一 畑 好昭 森田修己 渡邊文彦 (14名)

東関東支部
 會田雅啓 安達 康 天野秀雄 市川正美 伊豆秀雄 猪野照夫 岡部良博
 川良美佐雄 岸 正孝 腰原 好 小林喜平 小宮山彌太郎 齋藤文明 櫻井 薫
 佐瀬俊之 嶋村一郎 谷 勅行 中村一郎 長野裕行 松本敏彦 三鬼隆利 (21名)

東京支部
 五十嵐孝義 池田増夫 石上友彦 石田鉄光 磯 和博 稲葉 繁 榎本 滋
 大木一三 大山喬史 大輪正昭 尾関雅彦 棧 淑行 川口隆彦 川和忠治
 祇園白信仁 北川 昇 金 修澤 児玉秀夫 小林義典 佐藤吉則 塩沢育己
 志賀 博 芝 燁彦 新谷明喜 鈴木 章 鈴木哲也 田中 武 谷口 尚
 中嶋 武 萩原芳幸 萩原重一 波多野泰夫 早川 巖 古屋良一 保母須弥也
 真柳昭紘 三浦宏之 水谷 紘 三間清行 峯 勉 宮崎 隆 森谷良彦
 安田 登 山本克之 渡辺嘉一 割田研司 (46名)

西関東支部
 阿部 實 荒川秀樹 金安英治 小泉政幸 椎名順朗 滝新典生 田中伐平
 玉井久貴 豊田 實 中村善治 永野 忠 日笠不二夫 福島俊士 藤田忠寛
 細井紀雄 森戸光彦 (16名)

東海支部
 甘利光治 荒木章純 五十嵐順正 石神 元 伊藤 裕 川口豊造 川原田幸三
 倉澤郁文 倉知正和 黒岩昭弘 菅沼聰介 鷹股哲也 田中慎二 田中貴信
 塚本勝彦 長澤 亨 藤井 忠 藤井輝久 藤原道夫 時田真人 丸井義仁
 都尾元宣 森 隆司 山内六男 山下秀一郎 山村 理 柳田史城 (27名)

関西支部
 池邊一典 泉谷祐紀員 井上 宏 江藤隆徳 岡崎定司 小野高裕 兼平治和
 川添堯彬 黒田拓治 小正 裕 更谷啓治 末瀬一彦 高島史男 田中昌博
 土居敏三 長島 正 中村隆志 西崎 宏 野首孝祠 藤野 明 前田照太
 前田芳信 松島 諒 三木基二 宮内修平 山賀 保 吉田 実 (27名)

中国・四国支部
 赤川安正 池田弘一 市川哲雄 川田雄祥 川村康中 久保吉廣 窪木拓男
 近藤康弘 貞森紳丞 佐藤隆志 佐藤裕二 柄 俊彦 中尾勝彦 中野雅徳
 名原行徳 羽田 勝 濱田泰三 坂東永一 真鍋 顕 皆木省吾 矢谷博文
 山根 進 (22名)

九州支部
 熱田 充 稲永昭彦 右近晋一 内田康也 冲本公繪 鬼塚 雅 川畑直嗣
 古谷野潔 佐藤博信 高橋 裕 竹迫 清 田中卓男 寺田善博 中村社綱
 長岡英一 羽生哲也 藤井哲則 藤井弘之 鱒見進一 松下恭之 松村英雄
 宮内孝雄 村上繁樹 守川雅男 森本啓三 (25名)

「特定推進研究」領域の設定について

日本補綴歯科学会会長 川添堯彬
学術委員会委員長 赤川安正

1. 趣旨

21世紀の健康科学を支える歯科補綴学と補綴臨床をいっそう証明するためには、より確かな科学的根拠を集積する必要がある。そこで、補綴臨床に対して①萌芽となり、②発展させ、③成果を評価し、④医療価値を証明し、⑤教育効果を高めるための研究のなかで、世界先進諸国の歯科補綴学やその関連領域の研究動向ならびに補綴臨床の新しい趨勢などに照らして、とりわけ本学会学術大会や学会雑誌に発表の少ない領域・研究課題を見つけだし、10領域・課題を設定した。これらを「特定推進研究」(Strategic research encouraged for new prosthodontics)として本学会で定め、同分野の研究を奨励・顕彰することによって、研究の振興を図り、健康科学に貢献する歯科補綴学と補綴臨床の社会的価値をゆるぎないものにする。

2. 研究の10領域

- 1) 補綴臨床疫学・EBD・テクノロジーアセスメント (**Evidence-based prosthodontics・Technology assessment**)
- 2) 歯科補綴学教育の改善方策 (POS, PBL, OSCE など) (**Strategic modalities for improved prosthodontic education (POS, PBL, OSCE)**)
- 3) インプラント補綴学 (**Implant prosthodontics**)
- 4) 審美補綴 (**Esthetic prosthodontics**)
- 5) 高齢者の補綴治療 (**Geriatric prosthodontics**)
- 6) ティッシュエンジニアリング・バイオテクノロジー (**Tissue engineering and biotechnology**)
- 7) 咬合と全身・咬合と脳 (**Occlusion and general health/brain activity**)
- 8) 咀嚼と嚥下 (**Mastication and swallowing**)
- 9) 歯周と補綴治療 (**Soft tissue management in prosthodontics**)
- 10) 新しい生体材料・新しい技術 (**New biomaterials and technologies**)

3. 研究の奨励

- 1) 補綴誌に特定推進研究領域の解説を掲載し、会員の理解を得る (編集委員会と連携)。
- 2) シンポジウム、特別講演などにより、会員に周知、理解や関心を深める。

- 3) 補綴誌にこれらのテーマ論文を掲載することも検討する (編集委員会と連携)。

4. 研究の顕彰

- 1) 課題口演のテーマはこの特定推進研究の10領域とし、今後の学術大会3回 (106回, 107回, 108回) についてはこれらのテーマで課題口演を募集する。必要に応じて新しいテーマを追加することも検討する。
- 2) 優秀論文賞の選考においても、特定推進研究を反映させる (優秀論文賞推薦委員会と連携)。

「特定推進研究」の10領域の紹介

日本補綴歯科学会学術委員会

1. 補綴臨床疫学・EBD・テクノロジーアセスメント

これまでの補綴治療は、補綴物の生存率、治療の有効性や副作用、患者の生活の質の向上など、実際の臨床データに基づいて比較決断されてきたとはいいがたい。そこで、臨床現場から得られた臨床事実 (Clinical evidence) をもとに補綴治療の不確実性を軽減し、歯科医療現場において最大の利益をもたらす、臨床疫学による根拠に基づく歯科医療 (Evidence-based dentistry: EBD) が注目をあびるようになった。また、テクノロジーアセスメントとは、補綴治療の健康増進、疾病予防、治療効果、および経済・社会に与える影響を評価することであり、医療行政や政策決定に反映される。それゆえ、EBDやアセスメントを実現するために必須となる臨床事実の蓄積やその応用に関する種々の研究が奨励される。

2. 歯科補綴学教育の改善方策 (POS, PBL, OSCE など)

教育は人材養成に必須のものであり、歯科医学教育のさまざまな問題点が指摘されているなかで、歯科補綴学分野においても、卒前教育、卒後臨床研修、生涯教育の改善を不断に図らなければならない。これらの方策について、例えば、POS (Patient/Problem Oriented System, 患者/問題中心システム)、PBL (Problem-Based Learning, 問題解決型学習)、OSCE (Objective Structured Clinical Examination, 客観的臨床能力試験)などを検討することが望まれ、これらによって改善の提言が可能となり、さらに歯科補綴学教育の啓発を図ることができる。

3. インプラント補綴学

インプラント治療は歯の欠損に用いる魅力的な治療オプションである。このインプラント治療は、インプラントフィクスチャーに補綴装置 (上部構造) が装着され機能と審美性を回復して初め

て治療としての成果を評価できる。この点から、インプラント治療は補綴主導型で展開されるべきものであり、インプラント補綴学の確立が急がれる。それゆえ、この分野をリードする多くの研究がいま強く望まれている。

4. 審美補綴

顎顔面口腔の形態と機能を回復するにあたり、色調、形態、周囲組織器官との調和など、視覚的要素を考究することはぜひとも必要である。研究対象は、患者の意識・希望など心理的要素、美的感覚に対する術者と患者の見解の整合性、前処置における関連各科との連繋、新しい臨床術式の検討、当該術式における咀嚼、発音、嚥下の機能評価、新素材の評価、臨床成績の評価、術後管理など、多くの項目があげられる。

5. 高齢者の補綴治療

さまざまな全身状態を呈し、あらゆる歯科補綴学・治療法、隣接医学知識を必要とする高齢者の補綴治療、そのガイドラインは何かと考えると場合、基準となるEBMに基づく臨床データ、研究データが不足しているため、現在明確なものは存在しない。とりわけ高齢者においては、歯科と他疾患/全身状態との因果などEBM的なアプローチが必要であると考えられるが、歯の喪失リスクと健康科学との関連については未だ解明されていないことが多い。歯の喪失リスクは何か。それを評価する指標は何か。現場で実践する医師、介護者や介護支援の人々、これら関係職種への啓発教育のガイドライン、すなわち患者利益に直結するエビデンスの評価指標を作ることが望まれている。

6. ティッシュエンジニアリング・バイオテクノロジー

補綴治療の本来の目的は、失われた組織を生物学的に再生させることにあるが、研究レベルがそこまで達していなかったため、その代替として生体材料に頼ってきた。近年、ティッシュエンジニアリング (Tissue engineering: 組織工学) と呼ばれる新しい技術が、組織レベルの生物学的な再生を実現するために応用され始め、歯科領域のさまざまな組織にも広がってきている。そして、これらを実現するための生物学的手法がバイオテクノロジーである。これら組織再生に必要な細胞、細胞の足場、調節 (成長) 因子などに関する基礎研究やその臨床応用、さらにはその基礎概念をなす遺伝子工学や分子細胞生物学的な研究がいま推奨される。

7. 咬合と全身、咬合と脳

全身の恒常性・機能の維持、さらには情動の維持などは高齢者にとってそのQOLを保障していくうえで重要な達成目標であり、医学の一分野で

ある歯科医学においても日常の治療を通じて何らかのかかわりがあることが、いわば「伝承」として歯科医学の徒の間で伝えられてきた。そこで今後は、この「伝承」を科学的な実証性の裏付けによって解明し、特に咬合が全身や脳機能に及ぼす影響を追究することは、咬合の保持に携わる歯科補綴学領域の研究としてきわめて価値が高いものであるといえる。

8. 咀嚼と嚥下

咀嚼に関する満足度や咀嚼機能の回復度は、一般には質問表による主観的評価を用いた方法や生理学的手法を用いて研究されている。各種手法に関する検討、また補綴物の違いによって咀嚼機能に生じる影響などについての臨床研究はこれまでも散見される。しかし、咀嚼に関する疫学調査や長期的な縦断研究は特に国内では少ない。さらに、高齢化が進むなかで増加しつつある嚥下障害者への補綴学的対応は遅れていると思われ、咀嚼や嚥下機能の解明や評価は、歯科補綴学の重要な研究分野であることは疑いない。

9. 歯周と補綴治療

補綴治療を行うにあたっては、歯周組織に為害作用を与えないよう考慮するのは当然のことである。これまでも補綴物が歯肉、歯根膜、歯槽骨さらには欠損部顎堤粘膜に及ぼす影響について、生物学的な面から種々の研究が行われてきた。しかし、補綴物を受け入れる側である歯周組織の状態については、個人差に対しての配慮が不足していたように思われる。今後は補綴前処置として口腔内の環境整備、特に歯周組織を改善するソフトティッシュマネジメントの術式や評価は重要な研究課題である。

10. 新しい生体材料・新しい技術

医療用途で生体に適用される材料は生体材料と呼ばれ、歯科材料もその範疇に入る。この生体材料の二大用途は、移植材料と装置である。器官や臓器の不全に対して、従来から生体臓器移植および人工臓器で対応してきたが、近年再生医学も注目され、経済性や利便性の点からは、人工臓器いわゆる生体材料の適用に利点がある。さらに、人工臓器は本来の臓器の再現ではなく、特定の機能 (光学、理学、化学) を特化することができる。補綴治療に利用される義歯は、装置の一種であるが、従来の空間確保、機械工学的機能をさらに進めて、人工臓器として高い機能性の付与が望まれる。そのためには、新しい補綴治療用生体材料の開発はもとより、コンピュータ、エレクトロニクス、メカニクス、材料工学等の先端技術を応用する治療技術も待ち望まれる。

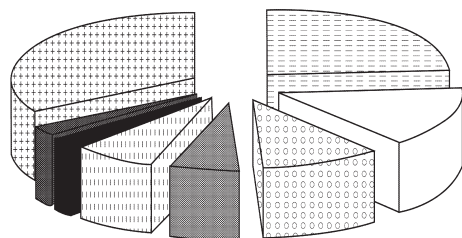
学会の健全運営化進む

平成 12 年度の決算ならびに平成 13 年度の予算が、第 105 回学術大会時の定例総会で承認されました。

平成 12 年度の歳入は、年会費、学会参加費、掲載・別刷料、前年度繰越金などが主なものです。12 年度は予算に比べて学会参加費が大きく増加し、掲載・別刷料が減少しましたが、予算額 148,924,458 円とほぼ同額の 148,907,477 円の収入を得ることができました。

歳出は、雑誌発行費、大会費、会議費、支部助成金、事務費などが主なものです。12 年度は雑誌発行費が大幅に減少し、加えて会議費も減少したため、予算 110,536,000 円に対して 99,545,010 円、予算対比は 90.1% となり、単年度収支は 6,474,009 円の黒字となりました。平成 11 年度に続いて平成 12 年度も黒字を計上することができました。

平成 12 年度決算（歳出）

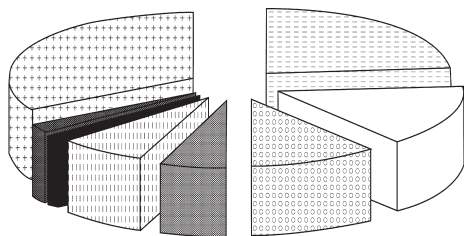


■ 雑誌発行費 □ 大会費 ⊞ 会議費 ■ 支部助成金
 ▨ 事務費等 ■ 予備費 ■ 名簿積立金等 ⊞ 次年度繰越金

また、平成 13 年度予算案も総会で承認されましたが、収入見込みが 149,827,467 円と昨年よりわずかに少なく見積もられています。これは学会参加費を少なく見積もったためです。支出では収入の減額に伴い支出項目別に見直しが行われ、会議費の大幅な削減が行われ、わずかですが単年度収支は 27,000 円の黒字となりました。

法人化には黒字である必要がありますので、今後とも学会入会者や学術大会参加者の増加により収入の増加を図るとともに、さらなる支出の見直しも行います。

平成 13 年度予算（歳出）



■ 雑誌発行費 □ 大会費 ⊞ 会議費 ■ 支部助成金
 ▨ 事務費等 ■ 予備費 ■ 名簿積立金等 ⊞ 次年度繰越金

ホームページが変わりました

ホームページ (<http://www.soc.nii.ac.jp/jpds/>) のコンテンツを以下のように変更し、内容も一新しました。最新の情報をお届けできるように、現在月に数回の頻度で更新を行っていますので、ぜひ一度ご覧下さい。

なお、ホームページをご覧になる場合、Microsoft社Internet Explorer 4.0以上をお勧めします。

日本語ホームのページコンテンツ
 会長から
 日本補綴歯科学会の歩み
 学会会則
 入会案内
 役員
 委員会、委員会活動
 認定医制度について
 日本補綴歯科学会雑誌
 学術大会案内のご案内
 Letter for Members
 支部会活動
 広報委員会よりお知らせ
 更新履歴

これまで口腔保健協会 (<http://www.kokuho-ken.or.jp/>) からリンクができませんでしたが、リンクが可能になりました。また、入会申請書の受付もホームページからできるようになりました。現在認定医・指導医リストや研修施設が掲載されていませんが、今後各先生方に掲載の意志についての確認のお尋ねをすることになっています。ホームページにお名前を掲載希望されない先生は、学会事務局までご連絡下さい。

英文ホームページについてもこれまで雑誌タイトルのみでしたが、以下のように変更しました。

英語ホームページのコンテンツ
 Outline of our society
 Executive members
 Committees
 Journals
 Scientific meetings
 Constitutional branches

また、第 106 回学術大会では国際セッションが設けられ、ホームページからの演題申し込みもはじめて可能になりました。

電子ジャーナルとは

電子ジャーナルについては、投稿、編集、印刷のすべてがかかわるものと、発表された論文をユーザーが閲覧できるものなど、いくつかの段階があります。例えば、「メテオインターゲート」という民間会社から、本学会に対して、補綴誌の

既発表のものを無料でサイトに載せ、これを希望者に有料でオンラインサービスするという申し出がありました。また一方で、従来から、国立情報学研究所の電子図書館サービスというものがあり、補綴誌の掲載論文を無料でサイトに載せ、誰でも無料で閲覧できるというものもあります。

この電子図書館サービスでは、過去に、第1巻から40巻程度までを電子化し、閲覧可能な状態まで進展しましたが、著作権の問題で現在は閲覧を差し止めており、新しいものについては電子化されていません。いずれにしろ、著作権の問題を解決する必要があります。

なお、現在の投稿規定では、著作権は学会に帰属することになっていますが、過去のものの著作権は著者と学会の両者に帰属することとなっています。したがって、著作権の問題を解決するには、過去にさかのぼって著作権が学会に帰属するように変更しなければなりません。そのための具体的方法としては、著作権変更にかかわる公告を補綴誌に掲載し、約半年の期間をおいて周知し、異論が出てこなければ著作権をすべて学会に帰属させ、電子ジャーナルとして閲覧可能な状態にすることは可能です。このため、45巻4号に公告を掲載していますので、著者の先生方は必ずお読み下さい。

中堅層に対する表彰制度の骨子固まる

現在の「優秀論文賞」には、「学会論文賞」と「奨励論文賞」の2種類があります。「学会論文賞」の受賞者をみますと20年以上の継続会員ばかりで、また「奨励論文賞」は35歳以下の年齢制限が設けられています。そのため、36歳以上の中堅研究者の表彰はなされていません。これらのことから、中堅研究者を対象とした新たな「優秀論文賞」を設置することになりました。

日本学術会議との連携強化

本学会の元会長小林義典教授（日本歯科大学）が、本学会のほか多数の学会の推薦により日本学術会議会員になられています。本学会からも渡辺誠理事（東北大学教授）が咬合学研究連絡会委員として推薦されています。小林先生をサポートしながら、本学会と日本学術会議とのパイプ役としてご尽力頂き、咬合学が21世紀の科学として活動、進展できるようアピールして頂きたいと思います。

日本歯科医学会報告

日本歯科医学会に対して、学会では理事、評議員等を出しておりますが、執行部の変更に伴い、理事には川添堯彬会長が、評議員には川和忠治副会長、平井敏博理事、細井紀雄理事、岸正孝理

事が、予備評議員には天野秀雄理事、伊藤裕理事、早川巖評議員、坂東永一評議員が推薦されました。また、学術研究委員会委員には赤川安正理事が、学術用語委員会委員には古谷野潔理事がそれぞれ推薦されました。なお、川添堯彬会長は常任理事に追任されました。

特別功労賞受賞者決まる

第105回学術大会時の総会におきまして以下の3名の先生方が特別功労賞を受賞されましたので、ご紹介いたします。

山下敦先生（昭和8年11月11日生まれ）

略歴

大阪歯科大学卒業
岡山大学歯学部附属病院長
岡山大学名誉教授

学会活動

日本補綴歯科学会評議員・理事
日本補綴歯科学会中国・四国支部支部長
日本補綴歯科学会用語検討委員会委員長
日本補綴歯科学会会則等検討委員会委員長
第94回日本補綴歯科学会学術大会長
日本補綴歯科学会論文賞受賞

松本直之先生（昭和6年7月30日生まれ）

略歴

東京医科歯科大学歯学部卒業
徳島大学歯学部長
徳島大学歯学部附属病院長
徳島大学名誉教授
明倫短期大学教授

学会活動

日本補綴歯科学会評議員・理事
日本補綴歯科学会中国・四国支部支部長
第87回日本補綴歯科学会学術大会長
日本補綴歯科学会名誉会員

藤原康功先生（大正9年6月13日生まれ）

略歴

東京歯科医学専門学校卒業
オレゴン大学特別研修受講
カリフォルニア大学特別研修受講
浜松臨床研修会主宰
中国医科大学特別研究員

学会活動

日本補綴歯科学会評議員
日本補綴歯科学会東海支部理事
日本補綴歯科学会指導医・認定医

名誉会員紹介

第105回学術大会時の総会におきまして以下の6名の先生方が名誉会員になられましたので、ご紹介いたします。

鹿沼晶夫先生（昭和 10 年 11 月 16 日生まれ）

略歴

東京医科歯科大学歯学部卒業
東北大学歯学部歯科補綴学第二講座教授
東北大学歯学部附属歯科技工士学校長
東北大学歯学部附属病院長
東北大学名誉教授

学会活動

日本補綴歯科学会評議員
日本補綴歯科学会東北・北海道支部支部長
第 99 回日本補綴歯科学会学術大会長

山縣健佑先生（昭和 10 年 10 月 9 日生まれ）

略歴

東京医科歯科大学歯学部卒業
昭和大学歯学部第二歯科補綴学教室教授
昭和大学歯科病院長
昭和大学歯学部長
学校法人昭和大学理事
昭和大学名誉教授

学会活動

日本補綴歯科学会評議員
日本補綴歯科学会東京支部支部長
第 88 回日本補綴歯科学会学術大会長
日本補綴歯科学会庶務担当理事
日本補綴歯科学会会計担当理事
日本補綴歯科学会論文賞受賞

松元 誠先生（昭和 10 年 10 月 19 日生まれ）

略歴

東京医科歯科大学歯学部卒業
東京医科歯科大学歯学部教授
東京医科歯科大学名誉教授

学会活動

日本補綴歯科学会評議員・理事

井上昌幸先生（昭和 6 年 8 月 26 日生まれ）

略歴

東京医科歯科大学歯学部卒業
東京医科歯科大学歯学部第二歯科補綴学
教室助教授

学会活動

日本補綴歯科学会評議員

岡田周造先生（昭和 10 年 1 月 15 日生まれ）

略歴

大阪大学歯学部卒業
大阪大学歯学部歯科補綴学第一講座助教授
住友銀行健康管理センター歯科診療所長

学会活動

日本補綴歯科学会評議員・理事・監事

権田悦通先生（昭和 8 年 4 月 6 日生まれ）

略歴

大阪歯科大学卒業
大阪歯科大学歯科補綴学第一講座教授（大
阪歯科大学高齢者歯科学講座教授）

大阪歯科大学副学長

学校法人大阪歯科大学理事

大阪歯科大学名誉教授

学会活動

日本補綴歯科学会評議員

日本補綴歯科学会関西支部支部長

第 107 回学術大会案内（予報）

開催日：平成 14 年 5 月 10（金），11 日（土）

会 場：文京シビックホール

（<http://www.city.bunkyo.tokyo.jp/>）

〒 112-0003 東京都文京区春日 1-16-21

TEL：03-5803-1100

大会長：小林義典

（日本歯科大学歯学部歯科補綴学第 1 講座）

（準備委員長：渡辺嘉一，事務局長：稲葉 繁）

内 容：一般口演，ポスター発表，課題口演，
シンポジウム，特別講演

問合せ先：志賀 博

〒 102-8158 東京都千代田区富士見 2-3-16

日本歯科大学歯学部歯科補綴学第 1 講座

TEL：03-3261-5729 FAX：03-3261-8464

課題口演テーマ

- 1) 補綴臨床疫学・EBD・テクノロジーアセスメント
- 2) 歯科補綴学教育の改善方策（POS, PBL, OSCE など）
- 3) インプラント補綴学
- 4) 審美補綴
- 5) 高齢者の補綴治療
- 6) ティッシュエンジニアリング・バイオテクノロジー
- 7) 咬合と全身・咬合と脳
- 8) 咀嚼と嚥下
- 9) 歯周と補綴治療
- 10) 新しい生体材料・新しい技術



文京シビックホール

認定医ケースプレゼンテーション 認定医研修会

開催日：平成 14 年 5 月 12 日（日）
会 場：文京シビックホール

応募締切り：平成 14 年 1 月 18 日（金）必着

プログラムなどの詳細は、学会誌 46 巻 2 号掲載予定の学術大会案内をお読み下さい。

課題口演優秀賞受賞演題

第 105 回学術大会時に行われました課題口演コンペティションにおいて、以下の先生方の演題が優秀賞を受賞されました。おめでとうございます。

1. 堀 一浩, 小野高裕, 野首孝祠 (大阪大学大学院歯学研究科統合機能口腔科学専攻顎口腔機能再建学講座)「グミゼリー咀嚼時における舌と下顎運動との協調性」
2. 坪田有史, 阿部菜穂, 久保卓哉, 西村康, 阿川哲生, 岩並恵一, 小久保裕司, 福島俊士 (鶴見大学歯学部歯科補綴学第 2 講座)「VITA In-Ceram 修復の臨床評価」

今後の学術大会

第 108 回学術大会

開催日：平成 14 年 10 月 11 日（金）、12 日（土）
会 場：名古屋国際会議場
大会長：藤井輝久
(朝日大学歯学部歯科補綴学講座)

第 109 回学術大会（予定）

開催日：平成 15 年春
会 場：東京都内
担 当：日本大学歯学部

第 110 回学術大会（予定）

開催日：平成 15 年秋
会 場：長野市
担 当：松本歯科大学

いずれの学術大会でも学術大会終了翌日の日曜日に認定医研修会が開催される予定です。学術大会と併せて多数の会員のご参加をお待ちしております。

支部学術大会のお知らせ

東関東支部（茨城県歯科医師会と併催）

開催日：平成 14 年 2 月 10 日（日）
会 場：水戸プラザホテル（水戸市）
大会長：中島早苗・先生
(茨城県歯科医師会会長)

東京支部

開催日：平成 14 年 2 月 9 日（土）
会 場：日本大学会館
大会長：五十嵐孝義

(日本大学歯学部補綴学教室クラウン・ブリッジ学講座)

特別講演：行田克則先生（東京都開業）「歯周組織と調和した審美補綴一歯肉縁下マージンの考察」

西関東支部

開催日：平成 14 年 2 月 16 日（土）
会 場：鶴見大学会館
大会長：細井紀雄
(鶴見大学歯学部歯科補綴学第 1 講座)

東海支部

開催日：平成 13 年 11 月 25 日（日）
会 場：朝日大学
大会長：長澤 亨
(朝日大学歯学部歯科補綴学講座)
特別講演：森戸光彦教授（鶴見大学歯学部高齢者歯科学講座）「義歯は変わるか」

関西支部

開催日：平成 14 年 3 月 3 日（日）
会 場：京都府歯科医師会館
大会長：野首孝祠
(大阪大学大学院歯学研究科統合機能口腔科学専攻顎口腔機能再建学講座)

支部学術大会抄録集の表紙変更される

支部学術大会の事後抄録の演題名、名前、所属に英文を併記することになりました。適応は平成 13 年度の支部学術大会からですので、ご注意下さい。また、支部抄録集表紙にも英文を併記することになりました。例えば、九州支部学術大会の場合、

Abstracts and Program
Annual Scientific Meeting of Japan Prosthodontic Society
Kyushu Chapter
August 26, 2001, Nagasaki, Japan

とすることになりました。
なお、文献として引用する場合など、改行なく使用する場合には、下記の表記とします。
Abstracts and Program : Annual Scientific Meeting of Japan Prosthodontic Society, Kyushu Chapter, August 26, 2001, Nagasaki, Japan



ニュース 日本歯科新聞に記事掲載される平成 13 年 6 月 2 日（土）に川添会長、小林喜平第 105 回学術大会長、広報委員会と日本歯科新聞との対談が行われ、学会の基本方針、第 105 回学術大会について 6 月 26 日発行の日本歯科新聞 1238 号に 1 ページを使って詳細に掲載されました。

関連学会案内

第 12 回日本歯科審美学会

開催日：平成 13 年 11 月 3 日（土・祝日）、4 日（日）

会 場：ももちパレス（福岡県勤労青少年文化センター）

大会長：羽生哲也

（福岡歯科大学歯科補綴学講座）

メインテーマ：歯科審美：新世紀への挑戦

会長講演：21世紀を迎えた歯科審美学会

岩久正明教授

（新潟大学大学院医歯学研究科）

特別講演：日本人の起源—顔面形態を中心として
埴原和郎（東京大学名誉教授）

シンポジウム：審美歯科最前線1・2

歯科衛生士セッション（教育講演）

歯科技工士セッション（テーブルクリニック）

第5回日本顎顔面インプラント学会

開催日：平成13年11月16日（金）、17日（土）

会 場：ぱるるプラザ京都

大会長：飯塚忠彦

（京都大学医学研究科口腔機能病態学）

教育講演：堤 定美教授（京都大学再生医科学研究
所）、上田 実教授（名古屋大学大学院医学研究科）、Smiler, D. 先生
（米国開業）、Sennerby, L. 教授（イェ
テボリ大学）、Schmelzeisen, R. 教授
（フライブルグ大学）

シンポジウム：インプラントに関する教育の現況
と指針

第12回日本磁気歯科学会

開催日：平成13年12月1日（土）、2日（日）

会 場：北海道歯科医師会館

大会長：平井敏博

（北海道医療大学歯学部歯科補綴学第1
講座）

特別講演：坂東永一教授

（徳島大学歯学部歯科補綴学第2講座）

第3回口腔機能水学会

開催日：平成14年3月2日（土）、3日（日）

会 場：北海道歯科医師会館

大会長：田中 収

（北海道医療大学医科歯科クリニック）

シンポジウム1（市民フォーラム）「水と健康
—生活の中の機能水—」基調講演：伊藤和彦教
授（北海道大学農学部）

シンポジウム2「どのように使う、機能水。一歯
科臨床応用の実際—」

関連国際学会案内

The 9th Annual Meeting of Asian Academy of Craniomandibular Disorders (AACMD)

開催日：平成13年11月3、4日

場 所：パラダイスホテル、プサン市、韓国

Annal Session (2001) of the Academy of Prosthetic Dentistry R.O.C

開催日：平成13年11月17、18日

場 所：台北市、台湾（中華民国）

川添堯彬会長が招待により出席されます。

The Korean Academy of Prosthodontics (KAP) 2001年度秋季学術大会

開催日：平成13年11月24、25日

場 所：ソウル市、韓国

川添堯彬会長が特別講演をされる予定で、本学
会の理事役員のほか発表者も多数参加される予定
です。

後日、一般口演（英語）、ポスター発表（英語）
の本学会への募集がありますので、ふるって応募
してください。

80th International Association of Dental Research (IADR)

開催日：平成14年3月6～9日

場 所：San Diego Convention Center, San
Diego, California, USA

関連学会報告

第18回日本顎顔面補綴学会

平成13年6月8日、9日に佐賀市アバンセに
おいて香月 武教授（佐賀医科大学歯科口腔外
科学講座）を大会長として開催されました。一般演
題35題が発表されました。また、今回で7回目
になる教育研修会は「下顎欠損症例の回復とその
評価」というテーマで行われました。特別講演は
スウェーデンのAnaplastologistであるKerstin
M.B. 先生により「インプラントを用いた顔面補
綴」について行われました。

第19回は、来年10月2日（水）～6日（日）に沖縄
で国際顎顔面補綴学会との併催で行われる予定です。

第12回日本老年歯科医学会

平成13年6月13日（水）、6月14日（木）、6
月15日（金）の3日間、野首孝祠教授（大阪大
学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座）を大
会長として、上記学会が、第43回日本老年医学
会、第43回日本老年社会科学会、第24回日本基
礎老化学会、第16回日本老年精神医学会と合同
で大阪国際会議場（グランキューブ大阪）におい
て開催されました。

特別講演、シンポジウム、市民公開シンポジウ
ム、サテライトシンポジウム、ランチョンセミ
ナー、一般講演、教育講演など89題の発表があ
りました。特別講演は、アイオワ大学のEttin
ger, R. 教授により「高齢者の歯科治療に対する
評価と臨床意志決定」と題して行われました。

来年度は、平成14年6月29日（土）、30日

(日)に広島国際会議場にて開催されます。

第12回日本スポーツ歯科医学会

平成13年6月24日(日)に宮下和人先生(愛知県歯科医師会会長)を大会長として愛知県歯科医師会館にて開催されました。特別講演は、「スポーツ歯科医学21世紀の展望」の演題名で、佐藤祐造教授(名古屋大学総合保健体育科学センター)、石島 勉助教授(北海道医療大学歯学部歯科補綴学第1講座)により行われました。一般口演、ポスター発表も約40題行われました。

第13回は、平成14年12月8日(日)に大分県歯科医師会の主催により行われる予定です。

第79回国際歯科研究学会 (IADR)

平成13年6月27日(水)~6月30日(土)の4日間、幕張メッセにおいて開催されました。20数年ぶりの日本での開催になりました。本学会も今回のIADRに対して後援を行っていますが、開会式には組織委員の川添堯彬会長、藍 稔元会長、小林義典元会長も出席されました。

ポスター発表、口頭発表、シンポジウムで約2,200題が発表されました。サテライトシンポジウムとして、「Geriatric oral health: Japanese and global themes」, 「Evolution and revolution in periodontology/Implant dentistry symposium」なども行われました。

また、今回はGC創立80周年記念GCシンポジウムも4題企画され、補綴関連としては「歯科学におけるCAD/CAM」, 「未来の技術(インプラントを中心として)」が行われました。

第5回国際歯科チタンシンポジウム

平成13年6月30日(土)、7月1日(日)にOVTA(海外職業訓練協会)で開催されました。このシンポジウムには本学会も後援し、川添堯彬会長が学会代表として挨拶されました。「世界のチタン研究の現状」「チタン合金の特性」「インプラントと生体適合性」「チタン臨床応用」「補綴治療と新技術」などのセッション、またポスターセッションが行われました。

今回は国際歯科技工シンポジウムも併催され、「チタン鑄造の進歩」などのセッションも行われました。市民公開講座も開催されました。

国際歯科チタンシンポジウム閉会後には第14回歯科チタン学会が開催され、「金銀パラジウム合金 vs チタン」の公開討論会も開催されました。

5th World Congress of Oral Implantology (WCOI)

平成13年6月30日(土)~7月2日(月)の3日間、東京ビッグサイトにおいて斎藤 毅教授(日本大学歯学部総合歯学研究所)を大会長として開催されました。この学会も本学会が後援しました。

International workshop 11題, Plenary lecture 2題, Keynote lecture 5題, Symposium など多数のプログラムが用意され、ポスター発表184題, 口頭発表38題も行われました。

第6回は、2004年にIADRのサテライトとしてハワイにて開催される予定です。

第14回日本顎関節学会

平成13年7月26日(木)、27日(金)に井上宏教授(大阪歯科大学欠損歯列補綴咬合学講座)を大会長として神戸ポートピアホテルにて開催されました。特別講演は、開 祐司教授(京都大学医学部)による「関節器官の再生医学を考える」とSlavicek, R.教授(ドナウ大学)による「Temporomandibular joint and occlusion」が行われました。教育講演としてTanaka, T.T.臨床教授(南カリフォルニア大)による「Anatomical factors in non-surgical management of TM joint disorders」が行われました。また、口頭発表、ポスター発表で200題の発表が行われました。

次年度は、平成14年6月27日(木)、28日(金)に日本都市センターホテルにて行われます。

第7回日本IMZ・F2インプラント研究会・症例検討会

平成13年8月4日(土)、5日(日)に矢谷博文教授(岡山大学大学院医歯学総合研究科)を大会長として倉敷市倉敷公民館にて開催されました。特別講演はヴォルフガング・ヤコブス先生(ドイツ開業)による「歯科インプラントにおける骨造成と審美修復」, 教育講演は上田 実教授(名古屋大学大学院医学研究科)による「ティッシュエンジニアリングと口腔インプラント」, ランチョンセミナーは山下 敦名誉教授(岡山大学)による「口腔インプラントに必要なデンタルフィロソフィーとインフォームドコンセントの実際」が行われました。一般演題では韓国からの発表もありました。

次回は、平成14年8月24日(土)、25日(日)に日本歯科大学新潟歯学部にて開催予定です。

第15回日本顎頭蓋機能学会

平成13年9月8日(土)、9日(日)に覚道健治教授(大阪歯科大学口腔外科学第二講座)を大会長として大阪府立女性総合センター(ドーンセンター)にて開催されました。特別講演は栗田賢一教授(愛知学院大学歯学部口腔外科学第一講座)による「顎関節症の自然経過とADL」, 教育講演は覚道健治教授による「TMDに対する外科治療」が行われ、有料プレセミナーとして村上賢一郎助教授(京都大学医学研究科口腔機能病態学)による「臨床医のための開口障害への対応」が行われました。また、シンポジウムとして「撮

食・嚥下障害と口腔ケア」, 「咀嚼障害とADL」, 「不正咬合とQOL」の3題が行われ, 課題講演, 一般口演, ポスター発表も行われました。

次年度は平成14年9月14日(土), 15日(日)に行われる予定です。

解説 関連学会参加時の単位について

認定医資格更新時の単位となる歯科補綴関連学会(2単位)は, 以下の学会です。ただし, 関連学会の出席のみで更新単位(20単位)を満たすことはできません。

日本歯科医学会
日本歯科理工学会
日本老年歯科医学会
日本顎顔面補綴学会
日本顎口腔機能学会
日本顎頭蓋機能学会
日本口腔インプラント学会
日本歯科審美学会
日本顎関節学会
日本接着歯学会
JADR
認定審議会が認める国際学会

Dentistry in Japan 掲載論文紹介

以下の3編が推薦されました。来年3月発行のDentistry in Japan 37巻に掲載されることになりました。

1. 田上直美, 他(長崎大学歯学部歯科補綴学第1講座): 技工用光照射器の相違が前装用レジンの諸性質に及ぼす影響(補綴誌44巻: 416~425, 2000.)
2. 村岡正規(大阪歯科大学高齢者歯科学講座): α -TCP コラーゲン材を用いた歯槽骨形成に関する実験的研究(補綴誌44巻: 19~24, 2000.)
3. 岩松正明, 他(東北大学大学院歯学研究科加齢歯科学分野): 三次元咬合力に基づく側頭筋機能に関する研究(補綴誌44巻: 486~498, 2000.)

新規認定研修機関(乙)の紹介

1. 医療法人小室会小室歯科〔小室 甲〕(大阪歯科大学有歯補綴咬合学講座: 川添堯彬)
 2. 医療法人審美会鶴見歯科医院〔小柳光蔵〕(神奈川歯科大学歯科補綴学講座: 豊田 實)
 3. 経天堂歯科医院〔蒔田真人〕(愛知学院大学歯学部歯科補綴学第3講座: 伊藤 裕)
 4. 医療法人皓歯会ぐみょう今井歯科医院〔今井守夫〕(徳島大学歯学部歯科補綴学第1講座: 市川哲雄)
- 〔 〕は指導医・施設長, ()は連携認定研修機関(甲), 同機関指導医・施設長です。

新指導医・認定医紹介

以下の先生方が新しく指導医, 認定医になりましたのでご紹介いたします。

指導医

越野 寿, 藤澤政紀, 加藤一誠, 武田友孝,
加藤光雄, 萩原芳幸, 酒匂充夫, 堺 誠,
瀬川 良, 村上 斎, 村上 弘, 内田慎爾,
柿本和俊, 恩地良幸, 長島 正, 西川啓介,
大谷隆之, 里見圭一, 門川明彦

認定医

井上大一, 伊藤智加, 島田和基, 田中貞二,
亀井 秀, 栗原大介, 坪田有史, 菅 武雄,
内田昌治, 藤田哲夫, 上田章浩, 右遠英悟,
山本 誠, 岩瀬勝也, 奥田啓之, 中居伸行,
熊谷 宏, 寺野元博, 渡邊郁哉

新入会会員紹介

以下の先生が新たに入会されました。今後の学会でのご活躍を期待します。

秋田朋子, 秋山謙太郎, 熱田 生, 安藤米里子,
石田典子, 井上農夫男, 井上美香, 今林成仁,
岩永二郎, 岩並恵一, 上野 徹, 内田恵理子,
宇都泰象, 江田英一郎, 大友友昭, 岡本光晴,
尾松青爾, 加藤裕彦, 川上美穂, 川口威史,
河原大三, 川村芳子, 神作悦子, 神庭光司,
木村圭介, 工藤靖爾, 久保 圭, 佐藤恭子,
佐藤雅子, 佐藤洋平, 柴田明子, 清水功之,
下江宰司, 吹田 猛, 孫 賢, 高木有哉,
高岸亜矢, 高橋修平, 田中尊治, 田中英明,
田村友紀, 程 亜麗, 寺田典生, 照山裕子,
土井郁世, 中澤義人, 中島美穂子, 中根高信,
中村美紀, 長尾直子, 永野清司, 縄雅 梢,
新井田 淳, 西川 学, 埴 総司, 濱中麻衣,
早川正哉, 彦坂達也, 平井秀明, 藤井孝政,
藤島昭宏, 藤瀬恭平, 藤田智大, 古川匡恵,
本間慎也, 本間 濟, 松島仁志, 萬谷祐佳,
溝部健一, 宮崎結子, 宮島 久, 宮田利清,
安田以久, 柳川三千代, 山崎 宙, 和氣由記子

広報委員会からのお願い

広報委員会では, 学会に対する皆様からのご意見, ご要望, ご質問をお待ちしております。下記のファックスかメールにてお願い致します。

〒500-8309 岐阜市都通5-15
朝日大学歯科臨床研究所附属歯科診療所
日本補綴歯科学会広報委員会
委員長: 山内六男 幹事: 岩堀正俊
TEL: 058-253-7272 FAX: 058-255-0350
kohojps@dent.asahi-u.ac.jp